

皐月を迎えて

分所長 高木 敏彦

薫風の薫る清々しい季節となりました。先月末には、聖地亀岡の万祥殿での献勞奉仕に参画してきました。久しぶりの雑巾がけなどで汗をかき、淀んでいた心のあやがとれたようです。つきりしました。

さて、今月は教主生誕祭、みろく大祭、分所春季大祭と行事が続きますが、参拝制限も取れ、お参りの出来る喜びに感謝しています。ご家族そろつての参拝を頂きますようご案内申し上げます。

東北日記 四の巻より

出口 王仁三郎

仏の面から後光がさしたとか、こんな不可思議があつたとか、どんな「利益があつたとか、五色の雲がたなびいて仏陀が現れたとか、そういう伝説めきたることは論外として、われわれ人間がこうして生きている、その間の天恵地恵それを毎日刻々に体験して味わってみれば、われわれの周囲は皆神であり弥陀であり弥勒である。

天の恩恵、地の恩恵それなどはことごとく神仏弥勒の本体ではないか。一滴の水も一点の火光も人の情けも土も太陽も月も星も数えきたれば、皆われわれ人間に幸福を与えている。感謝の念慮から想いを致したならば、宇宙に存在するものすべてがありがたく思われる。そ

れが弥陀であり神でありキリストであり弥勒である。木仏、金仏、石仏、絵仏はそれを現したいわゆる大いなる仁恵の具体化したものであつて、その目は慈愛を表し、その手の挙げられたるは智の光明を表し、一方の手は救いを示したるもの、あるいは両手を天地にたとえその像全体を宇宙としたとの説明も良いだろう。すなわち大なる恵みの理想化されたものが仏の像であるといつても良い。

われわれ大本人からいつたら日々の生存は神の恵みの裏に包含されているのみでなく、神の生宮である神のみ子である。いわば神と合体である。現在も未来も神と合体である。仏者の説のように十萬億土まで探していく必要はない、毎日神とともに生き、神とともに働き、弥勒の神業に奉仕しているのだ。これほど現実で心地の良いことはない。われわれの生命は永遠無窮に神とともに榮えてゆくのである。

主な行事予定

五月四日(水) 天恩郷

教主生誕祭

五月五日(木) 梅松苑

みろく大祭

五月七日(土) 午後一時より大祭準備

五月八日(日) 午前一〇時半より

碧南分所春季大祭・合同慰霊祭

五月一五日(日) 午前一〇時より

三河本苑春季大祭・祖霊慰霊祭

*大祭終了後に新本苑内の清掃奉仕活動を

全員で行います。直会があります。

五月二二日(日) 午前9時〜午後三時

本苑一斉引越し・清掃 全員参加

五月三〇日(月) 午後六時より

本苑大神様・市杵島姫命 遷座祭

六月一二日(日) 午後一時半より

碧南分所月次祭 担当第三班

六月一九日(日) 午前一〇時より

三河本苑月次祭

本苑設立 五〇周年記念「色紙」**「」**染

筆の言葉 の募集

教主様よりご染筆頂く「言葉」の募集をします。締め切りは五月一五日春季大祭まで。

四〇周年記念の時は「お土のころ」でした。

参拝時には「マイボトル」「マイ箸」持参

しましょう♡

五月の誕生者

おめでと〜いございます！

- 大塚 英志 藤浦 直 高橋 まりな 一日
- 江坂 元康 二日 樫山 勲 五日 杉浦 康幸 六日
- 奥谷 直人 一二日 市古 圭 二一四日 江坂 豊 一七日 杉浦 梢 一九日 粟津 よし子
- 二〇日 奥谷 文子 二一日 蒲生 ゆい 市古 ゑみ子 二五日 高橋 直人 二六日 朝野 元子 二九日